

市民に日々寄り添い、災害時に支える『しなやかな』安全安心の庁舎

【新庁舎+敷地環境整備の方針】

市民に親しまれる「やわたプレイス」

- ① 市民・職員が使いやすい「柔軟性のある庁舎」
- ② 災害時に市民を支える「防災拠点」
- ③ 市民の活動の場の創出

八幡市は、石清水八幡宮の門前町、淀川水系の交通の要衝、京都と大阪の中間の住宅地として発展してきました。本敷地も街の主要動線と住宅地に囲まれた、市の結節点となる場所です。

私たちは、利便性が高い立地を生かし、人々が訪れたくなるまちなかの居場所「やわたプレイス」を提案します。

「やわたプレイス」は、新庁舎・市民広場・文化センター、そして既存庁舎を減築改修したみどりの広場で一体的に構成し、近隣の住民や学生、周辺施設利用者との接点を積極的につくり、賑わいある開かれた居場所をつくります。



図1-1 八幡の広域・近隣動線図 図1-2 「やわたプレイス」のイメージ



図1-3 広場と一緒にした新庁舎のイメージ

テーマ①【安全・安心な庁舎】

地域の防災力を繋ぎ、補い、高める「防災拠点庁舎」

① 防災連携の拠点となる庁舎

- ・みどりの広場を中心とした地域の防災機能を繋ぎ補完する庁舎として市の災害対策力を強化します。
- ・自衛隊やボランティア、支援物資の一元的な受け入れと、各避難所へ供給の拠点となります。
- ・病院搬送前の応急処置、帰宅困難者の生活、各種相談・罹災証明書の発行、情報発信、充電・wifiなどのサービスを提供し、市民の安全安心に寄与します。

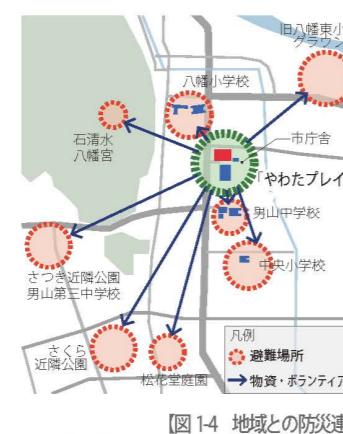
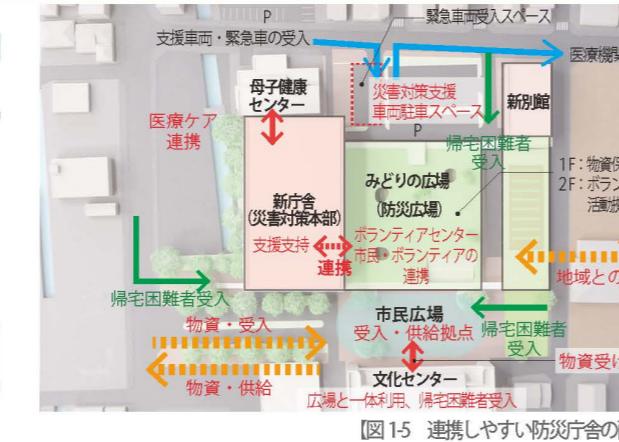


図1-4 地域との防災連携



テーマ①【安全・安心な庁舎】

災害時の庁舎機能継続を可能にする施設計画

② 7日以上持続可能な庁舎(BCP)

- ・災害時のインフラ途絶に対して、バックアップ設備等の自給により、庁舎と防災広場の機能を確保します。

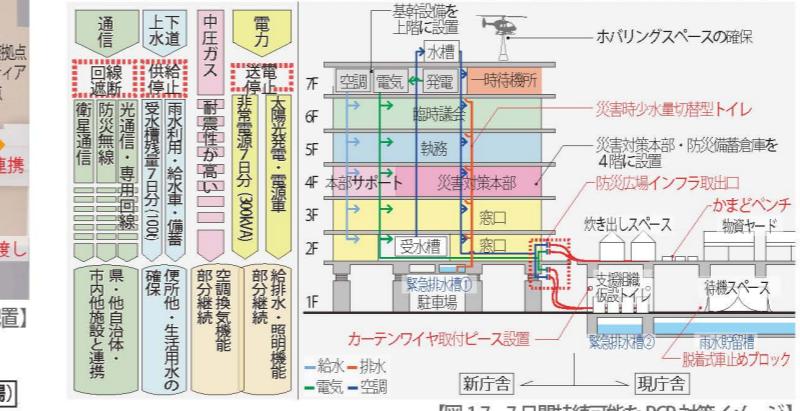


図1-7 7日間持続可能なBCP対策イメージ

② 防災拠点の機能を高める「みどりの広場」

- ・みどりの広場は防災広場に転換し、ピロティ下の空間と合わせた広い面積の防災拠点機能を開拓できる計画とします。
- ・防災広場には様々な方位からのアプローチが可能な計画とし、敷地外との連携を強化します。
- ・ピロティは降雨から守られるため、テント設営なしで迅速な復旧活動を可能にします。
- ・防災広場や街の様子が視認できる位置に、災害対策本部を配置します。

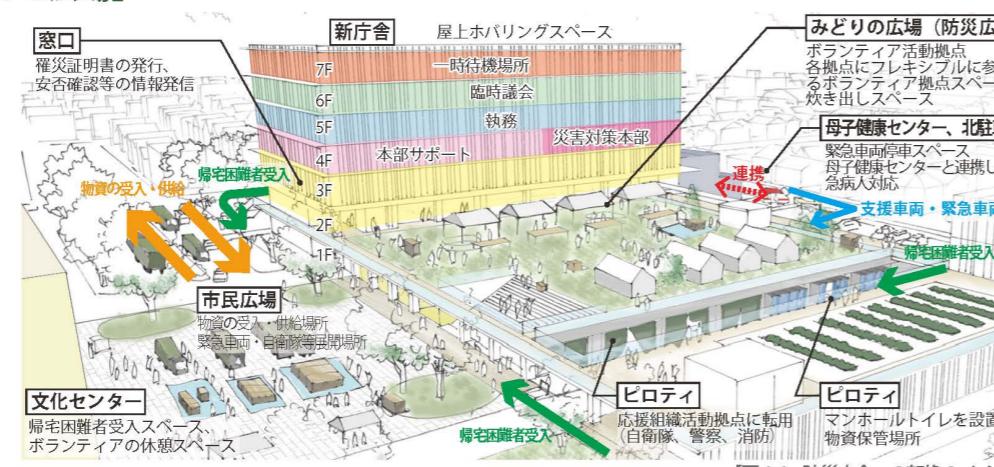
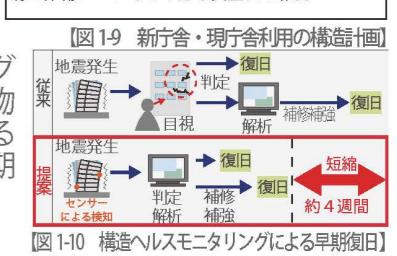
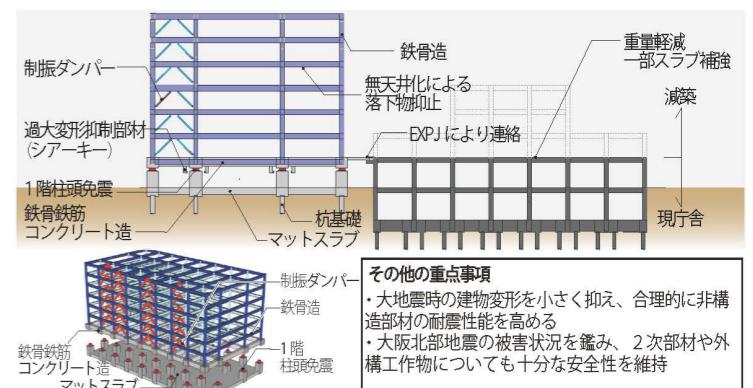


図1-6 防災庁舎への転換のイメージ

③ 安全とコストを両立する高耐震の構造計画

④ 独自提案

- ・浸水対策及び1階スペースの有効利用を図るため、1階柱頭免震を採用します。縦動線は2階からの吊構造とし、地震後も継続利用を可能にします。
- ・告示の想定を超える大地震時にも建物の損傷を最小限にします。上部架構に制振ダンパーを組み込んだハイブリッド構造を採用します。
- ・現庁舎の構造躯体は2階以上を減築し、最小限の耐震補強で、耐震性能1類を確保します。



④ 水害に備える3段階の合理的な浸水対策

- ・水害の再現率に応じた3段階の浸水レベルを設定し、庁舎機能を維持する合理的な浸水対策を計画します。

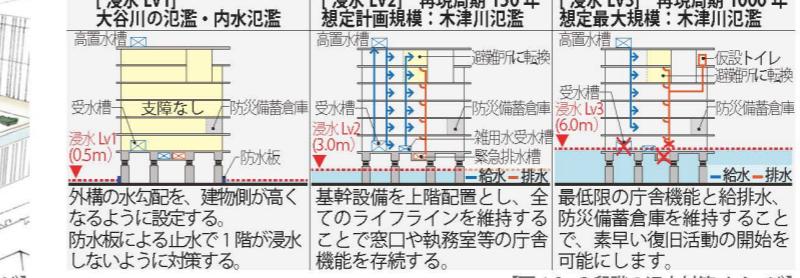


図1-8 3段階の浸水対策イメージ

その他の重点事項

- ・大地震時の建物変形を小さく抑え、合理的に構造材の耐震性能を高める
- ・大阪北部地震の被害状況を鑑み、2次部材や外構工作物についても十分な安全性を維持

- ・構造ヘルスモニタリングを導入し、地震後の建物損傷度を迅速に評価することで、庁舎機能の早期復旧を図ります。

